

平成29年度 日本大学スポーツ科学部個人研究費 研究実績報告書

所属: スポーツ科学部 競技スポーツ学科

資格: 専任講師

氏名: 近藤 克之

研究課題		片側大腿切断者と片側下腿切断者における走幅跳の踏切準備局面の比較
報告の概要	研究目的 及び 研究概要	<p>研究目的 本研究の目的は、片側大腿切断者と片側下腿切断者が行う走幅跳の助走局面における歩幅の調整に関する基礎的資料を得ることであった。</p> <p>研究概要 片側大腿切断者でも片側下腿切断者においても走幅跳の助走は加速局面、スピード維持局面、踏切準備局面に分けて捉えられることができる。本研究で着目する踏切準備局面では、踏切位置の調整と踏切準備動作を行わなければならない(深代, 1990)。片側大腿切断者がこの局面において、どのように踏切位置を調整し、踏切準備動作を行っているのか検討した研究は皆無に近い。従って平成28年度には、このことを検証するための基礎的な測定を行ってきた。平成29年度では、さらに検証を深めるために、片側下腿切断者との比較を試みる。その方法は、平成28年度に行ってきた「ピッチとストライドの関係」や「踏切前の足の接地点と踏切線の距離」、「内省報告」などを基に踏切準備局面の分析を行うこととする。</p>
	研究成果	<p>大腿切断者が走幅跳を行う実践現場では、その助走局面で、一度助走を開始し疾走速度が高まると歩幅の調整を行うことが難しいと言われている。従って、多くの選手が助走の最終局面で、いわゆるピッチやストライドを調整することをほとんど行わず、助走で走ってきた状態のまま踏み切りを行っていると言える。大腿切断者は、膝の機能がないために、膝継手を使いこなして疾走しているが、この機能を最大化し、高い速度で移動中に身体と膝継手と足部(義足)を連動して動かす運動技術が求められる。1名の女子大腿切断選手を対象とした予備実験においては、簡易的な測定に留まったため、明確な結果を得られていない。しかしながら、踏み切り1歩前にストライド長を大きくしていることが示唆された。</p> <p>今後は各歩数の接地点と踏切線の距離を測定し、被験者数を増やし、各選手の平均距離と標準偏差を算出する予定である。より詳細な結果を得ることによって、傾向を把握する必要があり、今後も研究を継続していく。</p>
研究業績	・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数	なし
	・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所	なし
	・その他 *学会・競技団体報告書など 著書名・標題・掲載誌名 発表年月・発行所 *講演会, 研究会, 研修会, セミナー等での講演発表 発表者・発表年月・題目名・講演会名 *社会貢献活動等	2020東京パラリンピックに期待すること～競技者・指導者の立場から～, 2020東京オリンピック・パラリンピックに向けた講演会(日本女子体育大学), 2017年11月30日, 近藤克之.